

カブ通信

～高尾山ハイキング～



No : 創刊号。平成22年10月12日発行
発行責任者：久保井隊長、執筆：北村副長

10月3日、前日まで続いていたぐずついた空模様から、一転、太陽が顔を覗かせる絶好のハイキング日和となりました。家庭の都合により1名の欠席スカウトがいたものの、スカウト12名、父母7名、妹1名、DC1名、RS1名、BS1名、DL2名、リーダー4名の総勢29名での大移動が始まりました。

残暑が厳しかった9月4日と秋めいてきた直前の10月2日の前日に下見を行い、万全の体制を整えました。

前日に中止の判断をすることから、事前に切符(回数券)を購入できないため、当日購入する手間はあったものの予定通りの電車に乗れました。興奮するスカウトや騒がしいスカウトがいましたが、終始和やかな雰囲気です。南武線から京王線に乗換え、一路高尾駅へ向かった電車の旅となりました。



高尾駅8時32分発のバスに乗り、中央道の小仏トンネルそばにある小仏バス停(終点)に到着。今日も混雑で臨時便が出ました。子供は現金払いで半額のキャンペーンを行っており、600円もお得に! 先ずは、若島副長が誘導して準備体操を行い、9時に景信山に向けて出発しました。



渋滞で有名な小仏トンネルの真上を横断しながら、緩やかな登りの登山道を北へ進みます。コナラやクヌギ、杉が生える高木の中のハイキングコースは、時折心地よい風が吹き、スカウトからも「涼しくて気持ちが良い～」と。普段はなかなか感じられない体験なのですね。

本格的なハイキングが初めてのうさぎスカウトは、ベレベラお喋りしながら先輩組長に置き去りにされないよう、「組長、早い～! 待って下さい」と声を掛け合っていました。



約1時間で景信山

に至る尾根道に到着。歩きながらたくさんのどんぐりを拾ったスカウト

が自慢げに、「副長、見て見て!」振り返ると、手にはどんぐりころころ。大事にビニール袋に入れて



持ち帰る姿に、純粋な子供心を感じた瞬間でした。さらに、休憩していると、「赤いトマトのようなきのこだ!」と新発見! ? 帰って調べてみたところ、おそらく『ベニテングタケ』という毒キノコでしょうか。おとぎ話にできそうな幸福のシンボルとして親しまれているようです。さてさて、一息して、景信山に向けて出発。約15分歩いて、歩いてきた道を振り返ると、八王子市内や狭山・所沢方面まで一望できました。10時15分、無事に景信山山頂に到着。



景信山山頂にて

今日は、これから、小仏峠まで下り、小仏城山を經由して高尾山に至るルートです。距離も長いので、山頂での小休止もそこそこに出発しました。

景信山山頂直下の急な下り斜面。小さい結ちゃんを優しく面倒を見るくまスカウトの姿に、『カブスカウトは幼いものをいたわります。すすんでよいことをします』のさだめを自然に実践している素晴らしさを感じました。





景信山山頂直下の急斜面

40分ほど下るとためぎがある？小仏峠に11時到着です。西に進めば相模湖方面、さらに進めば、信玄の宝を探した夏の思い出の地、甲府です。東に下れば小仏のバス停ですが、一行は、行動食の飴を頼張り、小仏城山経由で、昼食を取る一丁平（桜で有名です）へ急ぎました。



城山では、最強の昆虫であるハチに遭遇！！！！ザックからなかなか離れず怖い想いをしました。慌てず、騒がず、そっとその場から立ち去るのが得策です。各地でスズメバチの被害に遭われていることから、この夏の猛暑が影響していると思いました。



予定より30分遅れの12時過ぎ、ようやく一丁平に到着。ハバザックで担いできたおにぎりを食べて腹ごしらえ～高尾山口駅まで、まだ先は長いので昼食時間を45分にして出発しました。

少し下り、いよいよ高尾山への最後の登りに差し掛かりました。階段が200段以上続く道のりに、お母さんも少々辛そうな雰囲気を出していましたが、子供には負けられず、心地よい汗をたくさんかいてミシェルンの高尾山山頂へ到着しました。最近の登山ブームの影響で、山頂は人



高尾山山頂にて

の山。2等三角点で記念写真を撮っていると、側にいた若い女性から、子供が三角点を見ている姿に感心されました。ボーイになれば、地形図とコンパスを手に三角点や水準点の発見や地形図を読む（読図と言います）ことを行いますので、その準備段階として花崗岩の形を見たことを覚えておいてくれたらと思っています。

さて、計画よりも30分遅れのため、帰りを待つ保護者に第一報を入れ、仏舍利塔を目指します。途中薬王院を通過し標高を下げていくと白い塔が目の前に現れました。



仏舍利塔は、1956年タイのジャンボリーに参加した日本のスカウトがワット・プラバトムチューデー寺院参拝。この姿に感動した国王が、日本のスカウトに仏舍利（釈迦の遺骨の一部）を授与されました。初代総長の後藤新平（東京市長）が建てました。今では、地元八王子のボーイスカウトが毎年清掃などの奉仕活動を続けており、敷地内には記念碑も建てられていました。



仏舍利塔を後にし、一路高尾山口駅を目指して、登山道を下ります。途中、琵琶滝（修行のための滝）では、修行は行われていなかったものの、先月の大雨で下見の時よりも水量は多く、少し下ったところで清らかに流れる冷たい水に触れたスカウトは、自然に溶け込んだ一時を過ごしたものと思います。

約1時間遅れて、15時48分高尾山口駅から直通新宿行きに乗車し、分倍河原駅で乗換えて無事に登戸駅に到着。引率されたDL、リーダー、そして保護者の皆さん方、大変お疲れ様でした。翌日以降は筋肉痛に見舞われた方もいたようで、筆者も日頃の運動不足を痛感した思い出になりました。



発想豊かなスカウト

創刊号はいかがでしたでしょうか？どんぐりや花に触れ、自然への関心を高められたと思います。大自然の恵みがあってこそ、私たちが生きていけることを子供たちに分らせたと思うこの頃です。次号もお楽しみに！



カブ通信

～ 巣箱作り
前半編～



No : 1-1 平成 22 年 11 月 18 日 発行
発行責任者 : 久保井隊長、執筆 : 北村副長

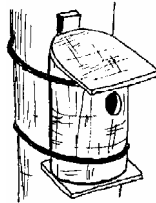
例年がない大変厳しい暑さに見舞われた夏が過ぎ、秋が一日一日と深まっていき、本格的な冬の訪れが近づいてまいりました。

ふりかえれば、ピッカピカの紺の制服に腕を通した入隊・上進式から、早いもので 2 ヶ月が過ぎました。しかスカウトはうさぎスカウトの見本となり自覚が増してきました。くまスカウトは、組長や次長に任命され、組のまとめ役として、かっこよさが光ります。くまスカウトだけの特別な「くま訓練」で、手旗信号の練習を始め、年明けには自分の名前が打てるよう練習しています。

巣箱作りが始まりました

今年度の年間テーマは『野鳥観察』。野鳥について調べて、小鳥のために心を込めて巣箱を実際に作ります。そして、冬の間には巣箱を生田緑地に設置します。冬を越してそのまま巣作りしてくれると嬉しいですね。

巣箱作りに当たって、のこぎりを使った板材の切断や、金づちで釘を打つために**お父さんの力が必要**です。組で 2 個ずつ作成しますので、ぜひ活動に御参加頂き、お手伝いをよろしくをお願いします。担当リーダーは津嶋副長ですので、御協力頂けるお父さんは、御連絡願います。



11月 7日(日) 組集会
野鳥について学ぶ

11月 14日(日) 隊集会
巣箱作り(ポップ)
板材に寸法線を書き切断



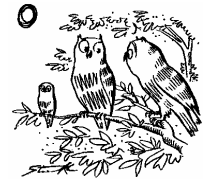
のこぎりを使う真剣な表情

11月 28日(日) 隊集会
巣箱作り(ステップ)
巣箱の組立て(釘打ち)
バードコールコンテスト



1月 9日(日) 隊集会
耐寒ハイク
多摩川の野鳥観察予定

イラストを
描いてね!



2月 27日(日) 隊集会
巣箱取付け(生田緑地)
終了後、46 パズールに参加

隊旗をリニューアル

～ 新たな歴史の始まりです～

発団当時から、カブ隊のシンボルとして代々受け継がれてきた隊旗は老朽化が著しいため、団会計の備品費執行の承認を得てこの度、新しく作り替え、10月 24日



の隊集会のセレモニーで、新しい隊旗が団委員長から隊長に授与されました。当日は江口スカウトの入隊式も行い、真新しい黄色と紺色の隊旗を持ち、

皆の前でカブスカウトの「やくそく」をして、しかスカウトとしての活動がスタートしました。

ヤマユリの竿頭：隊旗の冠頭は神奈川県の花であるヤマユリが描かれています。通常はスカウト章が描かれた物を使用しますが、平成 2 年度に神奈川連盟から隊表彰(スカウトの増加・拡大顕彰)を受けました。また、BS 隊(平成 4 年度)、VS 隊(平成 10 年度。当時はシニアスカウト隊(SS 隊))も授与しています。ぜひ一度ご覧になって下さい。

発行が予定よりも遅くなりました。

「自然との共存」が薄まりつつあるのか、熊や猿の出没した報道がされています。水や空気に大地... 大自然の恵みに感謝する心を養いたいものです。

